

1 単元名 かわってきた人々の暮らし ～古い道具と昔の暮らし～

2 授業構成

(1) 教師と教材

本単元は、小学校学習指導要領において

内容(5) 地域の人々の生活について、次のことを見学、調査したり年表にまとめたりして調べ、人々の生活の変化や人々の願い、地域の人々の生活の向上に尽くした先人の働きや苦心を考えるようにする。 ア 古くから残る暮らしにかかわる道具、それらを使っていたころの暮らしの様子

と位置づけられている。表現手段として「年表」があげられており、本単元では年表を作成する力や読み取る力も身につけさせたいと考える。

本時の学習は、調べてきたことをまとめた道具年表を見ながら、人々の暮らしの変化を話し合う。その中で「便利・快適さの追求」「電気利用による省力化」に着目させる。そこには人々の知恵や工夫があることを押さえた上で、地震のような非常事態も含めて、人々は必要に応じて先人の知恵を活用しながら生活をしていることを考えさせたいと思い、本単元を構成した。

(2) 子どもと教師

児童は本時まで、昔の道具について思い思いに調べ学習を進めてきた。例えば、通信手段や明かりについて、家族や親戚にインタビューするなどしてきた。また、鳥取県立博物館に見学に行き、昔の暮らしの様子について学芸員と学ぶなどしてきている。そうした中で「道具の進歩には人々の便利な生活をしたいという思いや知恵が詰まっている」さらには「私たちの暮らしは、道具の進歩とともにずいぶん便利になってきている」という気づきを持ってきた。前時では、そうした道具と暮らしの移り変わりを道具年表にまとめた。本時では、その道具年表を見て、人々の願いや思いの詰まったキャッチコピーをつくる。年表の基本的な見方を習得するとともに、調べ学習で聞きとった人々の思いと関連付けながら資料を読み取り、表現できる力を培いたい。

(3) 子どもと教材

本時ではまず、児童のつくった代表的な年表を提示する。時代を追って変化をみることや他項目との関連性をみるという年表の基本的な見方をおさえる。さらに、なぜこうした道具の進歩が生まれたのかと問うことで、先人の便利さを追求する姿勢や知恵について考えさせたい。児童は、率直に「便利な世の中になった」という感想を持ち、その気持ちをキャッチコピーで表現するであろう。そこで東日本大震災で井戸が活躍した記事を見せる。便利さの裏側には社会を支えている構造（インフラ）があり、それが崩れると生活はとたんに機能しなくなるということを実感させ、4学年の学習へとつなげたい。さらには、人々は生活の中で道具の進歩による便利さの追求だけではなく、必要に応じて先人の知恵を活用しながら豊かな生活を送ろうとしているということに気づかせたい。ここで注意しなくてはならないのはイデオロギー注入である。本時はオープンエンドとし、児童一人一人の考えや感想を出し合って学習を終わらせることとする。

3 単元目標

- 古くからのこる暮らしにかかわる道具、それらを使っていたころの暮らしの様子や、地域の人々の暮らしの変化が人々の願いや知恵によるものであることを理解する。
- 家族や親戚の暮らしの変化から学習問題を見だし、古い道具の使い方を教わったり、博物館で昔の暮らしを調べたりして年表にまとめるとともに、人々の暮らしの今昔の違いや変化、人々の暮らしの知恵について考えたことを適切に表現する。

4 学習計画（全8時間）

- 第1次 昔の道具を使ってみよう。（2時間）
 第2次 昔の道具を調べてみよう。（2時間）
 第3次 博物館に行って昔のくらしを調べよう。（2時間）
 第4次 調べたことをもとに、道具年表をつくろう。（2時間）…本時2／2

5 本時の学習について

（1）本時目標

道具年表を読み取る活動を通して、道具やくらしの変化には人々の知恵や願いが込められていることを考えるとともに、かわっていく人々のくらしについて自分なりの考えをもつことができる。

（2）期待される児童の様相

- A かわっていくくらしを想像し、今後の生活について自分なりの考えを持つことができる。
 B 年表から人々のくらしの変化を時代背景や人々の知恵や願いと関連づけて説明できる。
 C 年表のしくみを理解できる。

（3）本時の展開（○教師の意図 ◇支援）

学 習 活 動	教師の支援・意図
1. 年表を見ながら、人々のくらしのうつりかわりについて話し合う。	○年表を鑑賞し合い、時系列で並べることのよさや見る人を意識した絵や写真を使ったまとめ方の工夫に着目させる。
道具やくらしの変化について話し合おう。	
（1）見やすい年表にするための工夫について話し合う。	◇年表を黒板やスクリーンに提示することで、工夫したところを互いに確認できるようにする。
（2）道具がかわってきたのにはどんな理由があるのか、時代背景や人々の知恵や願いと関連づけながら話し合う。	○年表の見方を確認しながら、道具の進歩には電力による自動化・省力化が共通していることを押さえる。 ◇道具どうしを比較させることでどこが便利になったのか発表させるとともに、道具につまった人々の知恵や願いをキャッチコピーとして一言で表現させる。
2. 東日本大震災時の記事を読んで話し合う。	◇停電した場合、困ることについて事前に家庭で調べさせておき、地震後の現地のくらしを想像しやすくしておく。
（1）地震の後、水の供給に井戸が活躍していることを知り、自分たちが調べた道具は災害が起こったときは使えるかどうか確かめる。	○水の供給がストップしている地区では、井戸を掘るなどして水を確保している記事を紹介し、昔の知恵を生かして生活していることを知らせる。 ○自分たちが調べた道具の中には電気がない場合は無用の長物になりうる可能性がある道具も含まれていることを押さえる。
（2）昔の道具の知恵について改めて考え直し、かわっていく今後のくらしについて自分なりに考えたことを発表する。	○便利さを追求しながらも人々は環境のことを考えたり、よりよい生活が行えるよう考えたりしながら、昔の人々の知恵も生かし生活している（生活していこうとしている）ことに気づかせたい。

